

## 薬剤部 DI ニュース

## 医療安全管理について(シリーズ19)

### ～ 高濃度カリウム製剤の適正使用 ～

誤った投与の仕方をした場合に、患者の健康状態に対して死亡を含めた深刻な影響をもたらす薬剤として特に注意が必要な薬剤を「危険薬」として定義し、安全な使用に関する啓発活動を行っています。今回は危険薬のうち、誤った用法・用量・手技により、最悪の場合「心停止」を招く注射剤の「高濃度カリウム製剤」についてまとめました。

#### 【カリウムの特徴】

カリウムは神経・筋肉の正常機能に必須の電解質です。しかしながら、血中カリウム濃度の基準範囲3.5~5.0mEq/Lと狭く、高すぎたり低すぎたりすると不整脈・心停止を引き起こします。高カリウム血症の神経症状としては悪心・嘔吐、しびれ感、知覚過敏、脱力感などがあげられます。

#### 【安全使用のポイント】

● 「**速度**」 **20mEq/500mLを超えない**

● 「**濃度**」 **20mEq/hrを超えない**

速度が早ければ早いほど、また濃度が高ければ高いほど血管痛・血管炎が発症します。さらに心不全・心停止が発症しやすくなります。

● 「**1日総投与量**」 **100mEq/日を超えない**

1日の総投与量が至適用量を超えると不整脈・心停止に至ることがあります。

#### 【当院採用の高濃度カリウム製剤(2種類)】

○KCL注キット (20mEq)



○アスパラギン酸カリウム注キット (10mEq)



#### 【注意が必要な補液】

均一に希釈するための目安として黄色のリボフラビン(ビタミン B2)が添加

補液の中には既にカリウムを含有しているものがある。当院採用品としてはKN3号輸液がそれに該当する。KN3号輸液は500mL中に10mEqのカリウムを含有しているため、生理食塩液等のカリウムを含有していない補液と違って、混注できるカリウムの用量が10mEqまでとなる。(合計20mEq/500mLとなる)

〔Case 1〕



〔Case 2〕

